

海軍公報 第三千三十八號

海軍大臣官房

昭和十二年五月一日(土)

○辭令



(各通)

海軍造船學生ヲ命ス

(各通)

海軍造機學生ヲ命ス

宮武 孝光

橘 弘毅

中島 宣彦

山下 輝男

中田 富次郎

福原 博

野崎 始

金森 久良

辻田 正道

山折 滋郎

水野 一彦

濱 鐵夫

山崎 達郎

(各通)

海軍造兵學生ヲ命ス

海軍艦政本部造兵監督助手

海軍技手 久保 純良

吳海軍工廠附ヲ命ス(以上請海軍省)

海軍主計少佐 綠川 留吉

軍艦熊野艦裝員ニ要スル經費支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス(請支出官海軍省經理局長)

實吉 安彦

山本 正躬

力石 進平

鶴野 正敬

菊地 庄治

川上 陽平

大塚 史郎

渡邊 迪孝

○雜款

0451

海軍公報 第三千三十八號 昭和十二年五月一日

退役海軍大將正三位勳一等功三級黒井悌次郎四月二十九日薨去、來三日午後一時ヨリ青山齋場ニ於テ神式ニヨリ葬儀、同二時ヨリ三時迄同所ニ於テ告別式執行

後備役海軍機關中佐從五位勳四等庄中孝三郎四月二十七日卒去、昨三十日東京市中野區上町五自宅ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行セリ

三一八

海軍公報

第三千三十九號

昭和十二年五月三日(月)
海軍大臣官房

○辭令

東京文理科大學助手 高瀬 省三

海軍經理學校ニ於ケル英語教授ヲ囑託ス

但シ報酬年額六百圓ヲ贈與シ部内限奏任官待遇ト

ス(四月十九日海軍省)

田丸 清

横須賀海軍建築部所掌業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト(五月同)

○雜款

豫備役海軍大佐正五位勳三等合葉庄司昨二日卒去、明後五日午後二時ヨリ三時迄東京市中野區鷺ノ宮四ノ四四〇自宅ニ於テ佛式ニ依リ告別式執行

海軍公報 第三千四十號

昭和十二年五月四日(火)
海軍大臣官房

雑款

○出發

獨國駐在 海軍少佐 市川 義守
五月十一日午前一時
五分東京驛發
同吉日神戸發 伏見丸

○見學中止

特命檢閱期間中(五月十日ヨリ同十五日迄)特ニ已ム
ヲ得ザルモノノ外當廠見學差控ラレ度
(海軍火藥廠)

○給與通牒ニ關スル件照會

爾今當校(隊)ニ轉入ノ下士官兵ニ對スル給與通牒ハ
左記ニ依リ調製ノコトニ御取計ヒヲ得度

記

- 一、練習生種類別、同各期別、其ノ他トシ更ニ、下士官、兵ニ區分シ且ツ兵種別ニ別紙トナスコト
- 一、單ニ「轉ス」トナサズ、轉勤事由(「第何期何練

習生」「定員」「教員」等)記載ノコト

海軍主計大尉正七位勳六等 江島清 四月三十日死
去、昨三日佐賀縣小城郡小城町晴氣三七〇三自宅
ニ於テ葬儀執行セリ

海軍通信學校
海軍航空隊
海軍砲術學校
海軍工機學校
海軍航海學校
海軍航空學校
海軍須賀航空隊
海軍航空學校

海軍公報 第三千四十號 昭和十二年五月四日

三二一



0454

海軍公報 第三千四十一號

昭和十二年五月五日(水)
海軍大臣官房

○ 辭令

○昭和十二年五月五日

任海軍書記

浦田 鋤平

給五級俸

任海軍書記

村上 茂夫

給六級俸

任海軍書記

渡邊 爲人

給月俸七拾圓

任海軍書記

田中 主税

給七級俸

(各通)

陸軍工兵少尉正八位

田島 千七
神原 六藏

任海軍技手

給五級俸

(各通)

竹内 唯彦
大川 相房

任海軍技手

給月俸七拾圓

陸軍砲兵少尉正八位

福永 信貞

久保勝太郎

熱田 三郎

竹澤 賢徳

佐々木 成幸

秋山 洋

高橋 淺一

森川 親雄

永井 正治

廣瀬 秀太郎

黒木 正行

大介 弥之吉

任海軍技手

給七級俸

山本 元次

海軍公報 第三千四十一號 昭和十二年五月五日

三三三

任海軍技手 給月俸六拾圓	宮原 一男	舞鶴海軍工廠勤務ヲ命ス	同	神原 六藏
任海軍技手 給九級俸	關塚 良治	佐世保海軍工廠勤務ヲ命ス	同	竹内 唯彦
任海軍技手 給十級俸	明石 武一	水路部附ヲ命ス	同	大川 相房
	小笠原 彦八	(各通)	同	福永 信貞
		吳海軍建築部勤務ヲ命ス	同	久保 勝太郎
		海軍艦政本部附ヲ命ス	同	熱田 三郎
		吳海軍艦政本部ニ於ケル兵事事務ヲ囑託ス(海軍省)	同	竹澤 賢徳
		北海道廳屬 宮城 松藏	同	佐々木 成幸
		土屋 雅男	同	秋山 洋
		海軍艦政本部ニ於ケル造船造兵監督業務囑託ヲ解ク(註明同)	同	高橋 淺一
		吳海軍軍需部附ヲ命ス	同	森川 親雄
		海軍書記 浦田 鋤平	同	永井 正治
		同 村上 茂夫	同	廣瀬 秀太郎
		(各通) 同 渡邊 爲人	同	黒木 正行
		吳海軍建築部勤務ヲ命ス	同	大倉 弥之吉
		同 田中 主税		
		同 田島 千七		

<p>海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手ヲ命ス 同 山本元次</p> <p>吳海軍建築部勤務ヲ命ス 同 宮原一男</p> <p>水路部附ヲ命ス 同 關塚良治</p> <p>(各通) 同 明石武一</p> <p>同 小笠原彦八</p> <p>吳海軍建築部勤務ヲ命ス 同 小山昇</p> <p>依願免本官(以上各同)</p>	<p>○雜款</p>	<p>○郵便物閉塞交換開始 <small>昭和三十二年公報三六〇八号 此部、廢止</small></p> <p>特務艦洲埼、擲袋今般北米方面行動中同艦ト横濱郵便 局間ニ軍艦郵便ノ取扱ヲ行ハル</p> <p>(海軍省副官)</p>
--	------------	---

海軍公報 第三千四十一號 昭和十二年五月五日

海軍公報 第三千四十二號

昭和十二年五月六日(木)
海軍大臣官房

○通牒

航本第一四三五號

海軍航空機基本部品制式中左ノ通改正ス

昭和十二年五月五日

海軍航空本部長

「海空No.五二九プロペラ軸」ヲ別紙「海空No.五一九一
一プロペラ軸」及「海空No.五一九一二プロペラ軸」ニ
改メ「海空No.五三八プロペラ調速機取付部」ノ次ニ別
紙「海空No.五三九電動起動裝置電路系統圖」ヲ加フ
別紙ハ所要ノ向ニ之ヲ配付ス

○辭令

海軍公報 第三千四十二號 昭和十二年五月六日

○昭和十二年五月六日

任海軍技手

勳七等 信友 末七

給六級俸

海軍燃料廠附ヲ命ス

海軍技手 信友 末七

海軍書記 浦田 鋤平

依願免本官(以上皆海軍省)

○雜款

○學生入校期日

近ク任命豫定ノ本校高等科學生ハ六月八日午前八時十
五分始業式豫定ニ付其ノ前日迄ニ入校セシメラレ度
(海軍軍醫學校)

○本月一日左記ノ通地方海軍人事部ヲ設置セラレタリ

札幌地方海軍人事部

北海道札幌市北一條西一丁目

金澤地方海軍人事部

石川縣金澤市出羽町一番丁三七番地

兼六公園成巽閣内 (金澤 五一七〇番)
大阪地方海軍人事部

大阪市東區大川町三二番地

大阪ビルヂング内 (北濱 五〇〇一番)

高松地方海軍人事部

香川縣高松市壽町一丁目一番地

第一徵兵保險會社ビルディング内

○正誤 (ス)

昨五日辭令欄三三四頁上段十行目「札幌地方人事部」

ハ「札幌地方海軍人事部」ノ誤

海軍公報 第三千四十三號

昭和十二年五月七日(金)
海軍大臣官房

○令達

官房第二三八三號

海軍購買名簿中左ノ通改正ス

昭和十二年五月六日

海軍大臣

一地金、礦石類第一九項、同第二〇項及同第二二項中
 藤田礦業株式會社ヲ株式會社藤田組ニ改ム
 四電氣機械、器具、材料類第一九項並ニ一〇〇類第
 一項、同第二項、同第三項、同第四項、同第六項及同
 第七項中合資會社明治護謨製造所ヲ株式會社明治ゴム
 製造所ニ改ム
 一七雜品類第一三項中東洋酸素株式會社ヲ東洋酸素機
 械株式會社ニ改ム
 一九糧食品第一項及同第二項中丸安濱口合名會社ヲ濱
 口興業株式會社ニ改ム
 二〇ベルト類第一項、同第~~X~~項、同第四項及同第五項

中阪東調帶護謨合資會社ヲ阪東調帶護謨株式會社ニ改ム

○通牒

官房第二三九五號

昭和十二年五月七日

海軍省副官

關係各廳御中

暹羅國海軍潛水艦進水式參會諸官ノ

服裝ニ關スル件申進

來十四日神戸三菱造船所ニ於ケル暹羅國海軍潛水艦
 「シンサムツタ」及「プラーイイチユンボン」進水式
 ニ來賓トシテ赴カルル諸官ノ服裝ハ軍裝勳章一個ノコ
 トト御了知相成度

○辭令

0460

海軍公報 第三千四十三號 昭和十二年五月七日

依願免本官(請海軍省)

海軍技手 信友 末七

○ 雜 款

退役海軍主計大佐正五位勳三等功五級近藤他家雄
本月四日卒去、昨六日廣島市天満町向西館ニ於テ
佛式ニ依リ葬儀執行セリ

三三〇

海軍公報 第三千四十四號

昭和十二年五月八日(土)
海軍大臣官房

○ 辭令

海軍燃料廠鑛業部醫療業務囑託ヲ解ク(海軍省)
岩本 嘉文

飯田 康夫

海軍燃料廠鑛業部醫療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額參千圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(同)

武藤 益雄

海軍艦政本部ニ於ケル造船造兵監督業務ヲ囑託ス

但シ報酬貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(同)

○ 雜款

○ 試驗問題發送

第三十一期高等科整備術練習生採用試驗問題(採用試驗施行期日昭和十二年六月十七日(木))左記ノ通本月七日發送濟

記

一、聯合試驗參加不可能ト認メラル向ニハ直接、其ノ他ハ各海軍人事部長宛送付セリ
一、行動豫定變更等ノ爲所要ノ分トシテ若干部數前記各官宛送付シアリ未着ノ向ハ前記又ハ横須賀海軍航空隊宛通知相成度
(横須賀海軍航空隊)

一、第四十一期操縱練習生採用試驗問題

(試驗施行豫定期日昭和十二年六月十一日)

一、第四十一期普通科整備術練習生採用試驗問題

(試驗施行豫定期日昭和十二年六月十六日)

右四月二十八日左記ノ通發送濟、未着ニシテ必要ノ向ハ請求セラレ度

記

一、聯合試驗施行ノモノハ各人事部長及各要港部司令官(舞鶴及馬公ハ防備隊司令)ニ送付

二、臨時所要ノ分トシテ單獨試驗問題若干部數前記諸官へ送付

三、單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直送
(霞ヶ浦海軍航空隊)

海軍公報 第三千四十四號 昭和十二年五月八日

三三一

0462

海軍公報 第三千四十四號 昭和十二年五月八日

三三二

○給與通牒發送先變更
五月一日臨時資金前渡官吏ヲ命ゼラレシニ付爾今熊野
艦裝員(附)ニ對スル給與通牒ハ左記ヘ直送相成度
神戸海軍監督官事務所内
熊野艦裝員臨時資金前渡官吏

海軍公報

第三千四十五號

昭和十二年五月十日(月)
海軍大臣官房

○ 辭令

舞鶴海軍工廠附兼舞鶴要港部附

海軍技手 宮 脇 茂

舞鶴海軍工廠附兼海軍艦政本部造兵監督助手ヲ命ス

海軍艦政本部勤務兼造兵監督助手

同 玉井 勝 俊

佐世保海軍工廠附ヲ命ス

同 藪 肇

横須賀海軍工廠附ヲ命ス(以上高海軍省)

○ 雜 款

海軍大佐從五位勳四等武節俊二郎昨九日卒去、明
十一日東京市世田谷豪徳寺ニ於テ午後一時ヨリ佛
式ニ依リ葬儀、同二時ヨリ三時迄告別式執行

海軍公報 第三千四十五號 昭和十二年五月十日


海軍公報

第三千四十六號

昭和十二年五月十一日(火)

海軍大臣官房

○訓令

 海軍省出仕海軍少佐 森川 秀也
海軍省軍務局ニ於テ服務スヘシ(請海軍大臣)

○辭令

正七位勳五等 關根 利三郎
駐滿海軍部ニ於ケル測量事務ヲ囑託シ部内限委任官
待遇トス(請海軍省)
第三課勤務ヲ命ス 海軍技手 大川 相房
同 關塚 良治
第二課勤務ヲ命ス(以上請水路部)

海軍公報 第三千四十六號 昭和十二年五月十一日

三三五

海軍公報

第三千四十七號

昭和十二年五月十二日(水)

海軍大臣官房

○辭令

〔各連〕

海軍造船生徒ヲ命ス

桂井 清吉
田中 七郎

〔各通〕

海軍造船機生徒ヲ命ス

木下 和吉
後藤 義行
土岐 達二

〔各通〕

河田 繁治
佐々木 淨
井邊 利夫
高橋 嘉勝
平本 恭啓
鹿子嶋 勝一
富山 雀男
秋田 千秋

遠藤 博世

山根 毅

海軍造兵生徒ヲ命ス(以上 海軍艦政本部)

海軍機關中佐 渡邊 伊三郎

技術部第一課勤務ヲ命ス(海軍航空本部)

○雜款

○正誤

本月七日令達欄官房第二三八三號上段末行中「同第三項」ハ「同第二項」ノ誤

海軍公報 第三千四十七號

昭和十二年五月十二日

三三七

0466

海軍公報 第三千四十八號

昭和十二年五月十三日(木)
海軍大臣官房

○令達

官房第二五二二號

昭和十二年五月十三日
ニテ本号ニ廢止



當分ノ間骨付生魚肉ハ海軍給與令施行細則第二十條備考第九ノ規定ニ拘ラズ毎月三回貯藏魚肉ニ換給スベシ
本令ハ昭和十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年五月十三日

海軍大臣

○辭令

第一課勤務ヲ命ス(語海軍省軍務局)

海軍少佐 森川 秀也

海軍公報 第三千四十八號 昭和十二年五月十三日

三三九

海軍公報

第三千四十九號

昭和十二年五月十四日(金)
海軍大臣官房

○ 辭令

依願免本官(五月十四日)海軍省

海軍技手 村尾時之助

○ 雜款

○試驗問題發送
第五十八期高等科電信術練習生採用試驗問題五月十日左記ノ通發送済ニ付、未着ニシテ必要ノ向ハ本校ニ御通知相成度

記

- 一、聯合試驗施行ノモノハ吳、佐世保人事部長(横須賀ノ分ハ本校保管)及各要港部參謀長(舞鶴、馬公ハ防備隊司令)宛送付
- 二、試驗當日出動艦船用トシテ若干前記諸官(横須賀人事部長ヲ含ム)宛送付
- 三、單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直接送付

(海軍通信學校)

○學生入隊期日
海軍練習航空隊特修科學生(昭和十二年四月六日官房第一八〇〇號ニ依ルモノ)ハ六月七日迄ニ入隊セシメラレ度
(横須賀海軍航空隊)

○正誤
五月十二日辭令欄ニ行目「(各通)」及「田中七郎」ヲ削除ス

海軍公報 第三千五十號

昭和十二年五月十五日(土)
海軍大臣官房

○ 辭 令

歸朝ヲ命ス

海軍書記 弘中正男

軍令部附兼海軍艦政本部附

同 原崎 昊

兼海軍艦政本部附ヲ免ス
米國へ出張ヲ命ス

海軍技手 下里紋二郎

(各通)

同 濱田 義夫

同 橋川 愛壽

歸朝ヲ命ス

海軍艦政本部附同 入江 重郎

海軍艦政本部造船監督助手ヲ命ス

英國へ出張ヲ命ス

水路部附海軍技手 關塚 良治

兼駐滿海軍部附ヲ命ス(以上^{十五}海軍省)

土木業務囑託從七位 栗原 鐵藏

土木業務囑託ヲ解ク(以上^{十五}海軍省建築局)

海軍公報 第三千五十一號

昭和十二年五月十八日(火)
海軍大臣官房

○辭令

吳海軍病院ニ於ケル齒科治療ヲ囑託ス 高田 尙文
但シ報酬年額八百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

吳海兵團ニ於ケル齒科治療ヲ囑託ス 上綱 安光
但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

新庄 鎮
佐世保海軍病院ニ於ケル齒科治療囑託ヲ解キ佐世保海兵團ニ於ケル齒科治療ヲ囑託ス
但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上^{十五}海軍省)
東京帝國大學教授 上床 國夫
海軍ニ於ケル地質調査事務ヲ囑託ス(十八^同)

○雜款

○正誤スミ
本月六日本欄大阪地方海軍人事部ノ項中「大阪ビルディング内」ハ衍

海軍公報 第三千五十一號 昭和十二年五月十八日

(昨十七日ノ分ハ缺)三四五

海軍公報 第三千五十二號

昭和十二年五月十九日(水)
海軍大臣官房

○ 辭令

海軍大佐 高橋 政一
横須賀海軍工廠總務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス(五月十九日海軍省)

○ 雜款

海軍大佐正五位勳三等関田繁里昨十八日卒去、明後二十一日青山齋場ニ於テ午後三時ヨリ佛式ニ依リ海軍葬儀、同四時ヨリ五時迄告別式執行

海軍公報 第三千五十二號 昭和十二年五月十九日

三四七

海軍公報 第三千五十三號

昭和十二年五月二十日(木)
海軍大臣官房

○令達

官房第二六六三號

- 一、建築工事實施ニ際シ竣功後物品トシテ整理スベキモノ(電燈及工用器具機械ヲ除ク)ヲ工事費ヲ以テ購入(製作共)スルニハ當該工事訓令要領書ニ明示セラレタルモノヲ除クノ外ハ海軍大臣ノ認許ヲ受クベシ
- 二、建築工用器具、機械ニシテ一廉三千圓以上ノモノ及工事竣功後雜船トシテ整理スベキ性質ノモノヲ購入セントスルトキハ海軍省建築局長ニ協議スベシ但シ審査書類送付ノモノハ之ニ明記スルモノトス
- 三、一廉千圓以上ノ器具、機械ヲ購入シタルトキハ速ニ其ノ工事名、品名、數量及價格ヲ海軍省建築局長ニ通報スベシ

昭和十二年五月二十日

海軍大臣

大正三年官房第六三九號ハ自然消滅
(會計法規類集下卷三七〇頁參照)

○辭令

○昭和十二年五月二十日

- 任海軍助教 濱室 三郎
- 給四級俸 濱室 三郎
- (各通) 陸軍歩兵伍長勳八等 青木 平吾
- 任海軍書記 羽鳥 金治
- 給月俸七拾圓 山口 寶志
- 任海軍書記 山口 寶志
- 給月俸六拾圓 山口 寶志
- 任海軍書記 菊間 靖
- 給月俸四拾貳圓 菊間 靖
- 任海軍技手 陸軍歩兵軍曹勳七等功七級 松成 織之助

海軍公報 第三千五十三號 昭和十二年五月二十日

給四級俸	
任海軍技手	不動房吉
給七級俸	
海軍學生銓衡委員ヲ命ス	海軍中佐 西川正雄
海軍兵學校附ヲ命ス	海軍助教 濱室三郎
佐世保海軍艦船部附ヲ命ス	海軍書記 青木平吾
海軍航空廠附ヲ命ス	同 羽鳥金治
佐世保海軍經理部附ヲ命ス	同 山口寶志
同	同 菊間靖
横須賀海軍艦船部附ヲ命ス	同
獨國へ出張ヲ命ス	海軍技手 横井誠道
米國へ出張ヲ命ス	同 伊藤庄衛
吳海軍工廠附ヲ命ス	同 松成織之助
吳海軍工廠勤務ヲ命ス	同 不動房吉
海軍火藥廠ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス	北川徹三
但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上 ^{五ノ} 海軍省)	

(號外三頁)

海軍公報 號外

昭和十二年五月二十日(木)
海軍大臣官房

○通牒

官房第二六六四號

昭和十二年五月二十日

海軍次官

關係各廳長殿

第一線ノ行政事務刷新ニ關スル件照會

首題ノ件内閣ヨリ別紙通牒有之候處海軍部内ニ於テモ關係ノ向ハ此ノ方針ヲ具體化シテ實行ニ移スコトニ取計相成度

(別紙)

内閣閣甲第八一號

昭和十二年五月十三日

内閣書記官長 大橋 八郎

海軍大臣 米内光政殿

今般第一線ノ各種行政事務ノ刷新ヲ圖ル爲別紙要綱ニ依リ來ル六月一日ヲ期シ一齊ニ之ヲ實施スルコトニ閣

議決定相成候條實施方可然御配慮相成度依命此段及通牒候

第一線ノ行政事務刷新方策要綱

一、趣旨

現下ノ時局ニ對處シ、舉國一致國運ノ進暢ヲ期センガ爲ニハ、政治ノ刷新行政ノ改善ヲ要スルコト言ヲ俟タズ、而シテ先ヅ國民大衆トノ接觸部而タル行政事務ノ第一線ニ於テ民衆ノ利便ヲ圖リ眞ニ融合協力ノ實ヲ舉グルハ極メテ緊要ノ時務ナリ、仍テ其ノ具體の方策トシテ左ノ通り實施セントス

(註) 一、「第一線ノ行政事務」トハ中央各省タル

ト地方官公署タルトヲ問ハズ、民衆ニ直

接スル行政事務ヲ云フ

一、各官公署ノ所管ニ屬スル施設(例ヘバ商

品陳列所、何々獎勵館ノ類)ニ於テモ官

公署ニ準ジテ行フ

二、基調

海軍公報 號外

- (一) 第一線ノ行政事務刷新ハ之ニ依テ從來民衆ガ官公署ニ於テ浪費シタル時間又ハ費用等ヲ民衆本來ノ仕事ニ振向ケ、國民生活ノ充實發展ト國力ノ綜合的躍進ヲ期スルコト
- (二) 第一線ノ行政事務擔當者ハ眞ニ公ニ奉ジ國民ノ福祉ノ増進ニ寄與スベキ任務ヲ自覺シ劃期的ナル行政事務ノ刷新向上ヲ圖ルコト
- (三) 第一線ノ行政事務擔當者ノ監督者又ハ第一線ノ行政事務擔當官公署ノ上級行政廳ニ於テハ自ら範ヲ示スト共ニ、第一線ノ行政事務刷新ヲ容易ナラシムル様積極的ニ協力スルコト
- (四) 第一線ノ行政事務擔當官公署ニ於テハ國民ノ意見要望ヲ充分ニ斟酌シテ其ノ不便ノ除去利便ノ増進ニ努ムベキコト
- (五) 一般國民ニ對シ第一線行政事務ノ内容手續等ヲ機宜ノ方法ニ依リ平明ニ徹底セシメ其ノ理解ト協力トヲ求ムルニ努ムベキコト
- (六) 第一線ノ行政事務ハ親切ヲ旨トスベキモ徒ニ民衆ニ迎合スルノ弊ニ墮セザル様留意スルコト

三、實施大綱

(一) 第一線ノ全官公署ハ各實情ニ即シ刷新改善ヲ要

- スル事項少クトモ一ヶ月一定數事項ニ集中シテ自治的ニ改善ノ實ヲ舉グルコト
- 右實施事項及其ノ結果ヲ向フ一ケ年間毎月末各本省ニ報告スルコト
- 各本省ハ右報告ノ大綱ヲ内閣官房總務課ニ報告スルコト
- (二) 各廳ハ其ノ廳所管第一線ノ官公署ヲシテ勵行セシムベキ事項ヲ定メ之ガ勵行ヲ求ムルコト
- 右勵行事項及其ノ結果ヲ内閣官房總務課ニ報告スルコト
- (三) 第一線ノ行政事務官公署ノ上級廳ハ第一線ノ官公署ノ實施ニ即應シテ刷新改善ヲ要スベキ事項ヲ決定シ之ヲ實施スルコト
- 右實施事項及其ノ結果ヲ内閣官房總務課ニ報告スルコト
- (四) 關係各廳ノ聯合ニ依リ中央地方ニ於テ第一線行政事務刷新ノ爲ノ講習會、座談會、協議會ヲ開クコト

(參考)

第一線行政事務刷新ノ爲實施スベキ事項例

一、第一線行政事務擔當者ハ公衆ニ接スルニ威權ヲ濫

用セズ謹慎懇切ナルベキコト

(例)

(イ) 質問者ニハ可寧ニ説明ヲ與フルコト

(ロ) 善意ノ公衆ヲ叱責セザルコト

(ハ) 公衆ト口論セザルコト

(ニ) 申告ハ誠意ヲ以テ聴取スルコト

二、一般ニ事務ノ簡捷ヲ圖リ迅速ヲ旨トスルコト

(例)

(イ) 願届手續等ハ努メテ之ヲ簡易化スルコト

(ロ) 一般公衆ニ對スル照會、回答、指示等ノ用語ハメテ平易ニシ、場合ニ依リ口語文ヲ用フルコト努

(ハ) 願届手續、照會回答等ハ努メテ迅速ニ之ヲ處理スルコト

三、手續等ニ關シ國民ニ經濟的負擔ヲ掛クルハ最少限度ニ留ムル様努ムルコト

四、官公署ニ於テ一般公衆ノ呼出ヲ爲ス場合ハ努メテ一般公衆ノ便宜ヲ考慮スルコト

(例)

(イ) 出頭ヲ求ムルハ已ムヲ得ザルトキニ限り、電話又ハ書面ヲ以テ之ニ代フルコト

(ロ) 已ムヲ得ザル場合ノ外代人ヲ認ムルコト

五、一般ニ民衆ニ對シ努メテ便宜ヲ供與スルコト

(例)

(イ) 出頭時刻ハナルベク本人ノ都合ニ委スコト

(ロ) 時刻ヲ指定シタルトキハ長時間待合セヲ爲サシメザルコト

(ニ) 官公署事務ノ内容、取扱手續等ヲ具體的ニ分リ易ク周知セシムル爲適切ナル方法ヲ講ズルコト

(ハ) 窓日事務取扱時間ノ延長、休日ノ繰替又ハ日曜ノ半日執務等ヲ爲シ一般民衆ノ利便ヲ圖ルコト

(イ) 願届用紙ヲ作製シ希望者ニ分與ス此ノ場合費用ヲ要スレバ實費ヲ以テ受付ニテ販賣ス

(ロ) 願届等ヲ自書シ難キモノニ對シテハ許ス限リ代書シ與フルコト

(ハ) 案内係ヲ設置スルコト

六、當務者ノ事務改善研究會ヲ設クルコト

(ホ) 案内係ヲ設置スルコト

六、當務者ノ事務改善研究會ヲ設クルコト

海軍公報 第三千五十四號

昭和十二年五月二十一日(金)
海軍大臣官房

○令達

官房第二六八二號

明治四十二年官房第三五八號艦内主要ノ兵器、機關、船具ノ番號、稱號並ニ甲板内外舷等ノ受持及食卓寢所等ニ關スル規程申左ノ通改正ス

昭和十二年五月二十一日

海軍大臣

第一條第十八號(二)ヲ左ノ如ク改ム

(二) 潜水艦

重油「タンク」ハ其ノ用途ニ依リ之ヲ常備及滿載ニ區分シ其ノ番號ハ右舷奇數左舷偶數トシ前方ヨリ後方ニ一連ニ之ヲ附スルモノトス但シ常備艦内「タンク」ニハ前方ヨリ後方ニ一連ニ番號ヲ附シ且常備艦外「タンク」ニ次グ番號ヲ附スルモノトス



(諸例則卷三、三四五頁参照)

○辭令

海軍航空廠ニ於ケル實驗研究業務囑託ヲ解ク(五月海軍省)

明川 清

立川 保

聯合艦隊ニ於ケル齒科治療ヲ囑託ス
但シ報酬年額千參百八拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

藤原 隆藏

横須賀海軍病院ニ於ケル齒科治療ヲ囑託ス
但シ報酬年額八百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上五項同)

軍令部編纂事務囑託ヲ解ク(五項軍令部)
勳八等 宮坂 利喜造

○雜款

海軍公報 第三千五十四號 昭和十二年五月二十一日

0477

海軍公報 第三千五百九十四號 昭和十二年五月二十一日

三五二

○郵便物閉塞交換開始
練習艦隊今次外國航海中同隊司令部並ニ各艦ト内地郵便局間ニ左ノ通軍艦郵便ノ取扱ヲ行ハル
八月十七日迄ニ到達見込ノモノハ 下ノ關郵便局
其ノ後ハ 門司郵便局
(海軍省 副官)

海軍公報 第三千五十五號

昭和十二年五月二十二日(土)
海軍大臣官房

○辭令

海軍武官任用委員ヲ命ス
海軍軍醫大佐 原 隼人

同 杉村 好次

海軍豫備員志願者身體檢査委員ヲ命ス

海軍航空豫備學生採用試験委員ヲ命ス

同 高田 六郎

海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス(以上^{三十五}海軍省)

總務部第十課勤務ヲ命ス 海軍中佐 山田 道行

(各通) 海軍少佐 北村 喜三治

海軍技手 樽谷 由吉

在東京監督長ノ命ヲ承ケ服務スヘシ(以上^{五十四}海軍航空本部)

○雜款

○海軍部内及關係各部ニ於ケル振替貯金口座番號表中

追加

海軍工機學校主計部ノ項ノ次ニ

横須賀海軍航空隊主計科 同 六三、八九二

軍艦赤城(主計科)ノ項ノ次ニ

軍艦長門主計科 同 一四〇、三八五

軍艦霧島酒保ノ項ノ次ニ

軍艦榛名主計長 同 三〇、五六四

鎮海要港部ノ項ノ次ニ

鎮海防備隊主計科 同 七、五七一

鎮海海軍航空隊主計科 釜山國 六五

加フ

(海軍省經理局)

(昭和十一年七月七日海軍公報附錄參照)

海軍公報 第三千五十五號 昭和十二年五月二十二日

三五三

海軍公報 第三千五十六號

昭和十二年五月二十四日(月)
海軍大臣官房

○通牒

官房第二七三三號ノ五

昭和十二年五月二十四日

海軍省副官

各廳長殿

侍從武官被差遣ノ件通牒

今般吳鎮府管内簡閱點呼狀況實視ノ爲侍從武官山澄貞次郎ヲ同管内へ被差遣候趣侍從武官長ヨリ通牒有之候
追テ同官ハ六月五日東京發兵庫、京都、滋賀、愛知ノ各府縣下ニ於ケル簡閱點呼狀況實視、同十八日歸京ノ豫定

軍務一第七一號

昭和十二年五月二十二日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

判任文官ノ席次ニ關スル件通牒

海軍諸例
則登載

判任文官同等級内ノ席次ニ關シテハ自今左記ノ如ク解釋スルコトニ一定セラレ候條了知相成度

記

- 一、級俸ノ順序ニ依ル(同一級俸内ノ席次ハ其ノ級俸ヲ受ケタルトキノ前後ニ依ル)
- 二、他ノ所屬ヨリノ轉勤其ノ他ノ事由ニ依リ前號ニ依リ難キトキハ前級俸ノ順序ニ依ル
- 三、前號ニ依リテモ猶順序ヲ定ムルコト能ハザルトキハ年長者ヲ上席トス
- 四、判任官待遇者(海軍警査及海軍監獄看守)ノ席次ハ前各號ニ準ズ

海軍公報 第三千五十六號 昭和十二年五月二十四日

海軍公報 第三千五十七號

昭和十二年五月二十五日(火)
海軍大臣官房

○ 辭令



海軍中佐 釣谷 次三郎
於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額七百八拾圓ヲ給ス

海軍大尉 岩本 常吉
金澤地方海軍人事部ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額七百貳拾圓ヲ給ス

海軍少佐 出 淵 潔
高松地方海軍人事部ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額六百六拾圓ヲ給ス

海軍特務中尉 日下 平助
高松地方海軍人事部ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額四百八拾圓ヲ給ス(以上、海軍省)

故海軍中佐日高實保寡婦 日 高 香
一、金六千圓 但死亡者一時賜金
一、金壹萬圓 但死亡者保護賜金
故海軍大尉大久保利義父

(通各)

- 金四萬圓 但死亡者一時賜金 大久保 佐市
- 金壹萬圓 但死亡者保護賜金 故海軍航空特務少尉 龜田 直二郎
- 金貳千圓 但死亡者一時賜金 龜田 直二郎
- 金壹萬圓 但死亡者保護賜金 故海軍一等航空兵曹 山本 善一郎
- 金壹千六百圓 但死亡者一時賜金 山本 榮太郎
- 金參千圓 但死亡者保護賜金 故海軍二等航空兵曹 原 利一
- 金壹千四百圓 但死亡者一時賜金 原 豐吉
- 金參千圓 但死亡者保護賜金 故海軍二等航空兵曹 長田 忠雄
- 金壹千四百圓 但死亡者一時賜金 長田 ナカ
- 金參千圓 但死亡者保護賜金 故海軍二等整備兵曹 伊藤 末吉
- 金壹千四百圓 但死亡者一時賜金 伊藤 婦花
- 金壹千圓 但死亡者保護賜金 故海軍三等航空兵曹 村上 馨父
- 金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 村上 常次郎
- 金參千圓 但死亡者保護賜金 故海軍三等航空兵曹 松本 哲男
- 金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 松本 ハツ子
- 金參千圓 但死亡者保護賜金 故海軍三等航空兵曹 松重 尊父
- 金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 松重 茂人

海軍公報 第三千五十七號 昭和十二年五月二十五日

三五七

○雜款

海軍機關大佐從五位勳四等島田久 昨二十四日卒去、來二十八日東京市目黒區平町二二三日宅（目黒バス柿ノ木坂停留場下車大岡山小學校方へ約三丁）ニ於テ基督教ニ依リ午後一時ヨリ葬儀、同二時ヨリ三時迄告別式執行

退役海軍中尉從六位勳五等功六級諸井歌平 本月二十一日靜岡縣磐田郡久努村廣岡一三二ニ於テ死去セリ

故海軍三等航空兵曹原 松藏父

一金壹千貳百圓 但死亡者一時賜金 原 秀吉
一金參千圓 但死後者保護賜金

右大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ニ依リ之ヲ給與ス

故海軍看護兵曹長踊場筈至寡婦

踊場キミコ

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金八百圓ヲ給與ス

故海軍一等兵曹佐藤貞助寡婦

佐藤 トミ

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金壹千貳百圓ヲ給與ス

故海軍三等兵曹菊池又一母 菊池 マツ

故海軍三等機關兵曹西 親志父

西 金太郎

(通各)

昭和二年勅令第五十七號ニ依リ金六百五拾圓ヲ給與ス

海軍省建築局勤務海軍技手 安藤 勇夫

横須賀海軍建築部勤務ヲ命ス

海軍特務大尉 原 陸 三

海軍航空廠兵器部ニ於ケル事務ヲ囑託シ報酬年額七百八拾圓ヲ給ス(以上三五五同)

(附錄十三頁)

海軍公報 附録

昭和十二年五月二十五日(火)
海軍大臣官房

○雑款

○圖書

去ル三月中納庫セル普通圖書左ノ如シ(海軍文庫)

和漢書

A〇〇〇 兵 書

海上兵力ト工業 獨逸、海軍省編 一九三〇 二五九六
自其ノ一 至其ノ四 合本

A一〇〇〇 兵 學

北條氏長とその兵學 海軍大佐 有馬成市著 昭和十一 二五五七
東京 明隣堂書店

A二二一 戰 略

カステテ 戰略理論 第四卷 戰略要素篇 九一九三
ツクス 佛 海軍中將 テウル、カステツクス原著 昭和十二
海軍大學校譯

B二〇〇 航空機

最近の飛行船 酒井二郎編 昭和十 二五六六
東京 航空研究會

C一〇〇 海 軍

大日本 海の旗風 明治篇 海軍少佐 中島武著 昭和十二 二五〇九
海軍史 東京 學海書院

D〇三〇 年 表

國史大年表 日置昌一著 昭和十、十一 二六〇六
東京 平凡社

第一卷 自紀元 元至 至紀元二一五一

第二卷 自紀元 二一五二 至 二二六三

第三卷 自紀元 二二六四 至 二二七〇

第四卷 自紀元 二二七八 至 二二五〇

第五卷 自紀元 二二五一 至 二二七一

第六卷 自紀元 二二七二 至 二二九四

第七卷 索引、系譜、諸表

D二三〇 世界大戰戰史

世界大戰 第二卷 英、ウイニントン、チャーチル原著 自二五七六
廣瀬 將等共譯 昭和十一 至二五八一

文權と武權 (世界大戰中に於ける戰爭指導) 海軍大學校研究部編 昭和十二 二五九五

D四一二 日本陸戰史—朝鮮征伐

文錄慶長の役 別編第一 (東洋文庫論叢第二十五) 池内宏著 昭和十一 二五九三
東京 東洋文庫

D四二〇 世界大戰—陸戰史

歐洲戰爭研究資料 第三十九輯 參謀本部編 昭和十二 九四〇三

海軍公報 附録

<p>D六二〇 傳記—武人</p> <p>巨人齋藤實 村上貞一著 昭和十二 東京 新潮社 二二六五</p> <p>日本名將論 海軍大佐 水野廣徳著 昭和十二 東京 中央公論社 二二六六</p> <p>E三八〇 各國問題</p> <p>朝日時局讀本 東京朝日新聞社東亞問題調査會編 朝日新聞社 昭和十二 自二五六六 至二五六九</p> <p>第四卷 危機に立つ歐洲</p> <p>F〇〇〇 政治・法律(一般)</p> <p>契約、願越、訴訟 最新百般願越書式例とその解説 申請、催告、執行 岩崎高敏著 昭和九 東京 岡村書店 二二五四</p> <p>F一〇〇 政治</p> <p>勞働者政治運動の將來 海軍主計少佐 山口道尹編 昭和十三 二二五二</p> <p>議會政治論 馬場恒善著 昭和八 東京 中央公論社 二二六五</p> <p>F一一〇 政治學</p> <p>政治學の任務と對象 巖山政道著 昭和十 東京 巖松堂書店 二二六七</p> <p>政治學 佐藤丑次郎著 昭和十一 東京 有斐閣 二二六三</p> <p>F一二〇 憲法</p> <p>憲法と政黨 (國法學資料五篇) 美濃部達吉著 昭和九 東京 日本評論社 二二六二</p>	<p>國法及國法史の研究 中野登美雄著 昭和四 東京 敬文堂書店 二二六三</p> <p>英日本憲法論ノ世界的反響 松波仁一郎著 昭和九 二二〇五</p> <p>F一二一 日本憲法</p> <p>憲法真義 松本重敏著 昭和三 東京 巖松堂書店 二二六四</p> <p>訂憲法大綱 野村信考著 昭和十一 東京 巖松堂書店 二二六五</p> <p>全部改版 帝國憲法大意 清水 澄著 昭和十 東京 清水書店 二二六六</p> <p>日本憲法史研究 鈴木安藏著 昭和十 東京 叢文閣 二二六四</p> <p>改正選舉法令質疑竝判決例 内務省警保局編 昭和十一 東京 内務省警保局 P 三五五四</p> <p>F一三〇 立法</p> <p>昭和八年 貴族院要覽乙、丙 貴族院事務局編 昭和八 十二月增訂 貴族院要覽乙、丙 貴族院事務局編 昭和十 十二月增訂 P 六六六</p> <p>F一三一 政黨</p> <p>日本憲政成立史 鈴木安藏著 昭和十二 東京 學藝社 二二六八</p> <p>F一四〇 行政</p> <p>日本行政法總論 淺井 清著 昭和十 東京 巖松堂書店 二二六一</p> <p>日本行政法原理 織田 萬著 昭和九 東京 有斐閣 二二六二</p> <p>F二一〇 法學</p>
--	---

訂全特許法詳論	吉原隆次著 昭和十一年 東京 有斐閣	一一五〇
出版警察法大意	土屋正三著 昭和十一年 東京 大學書房	一一〇一
改正出版法並新聞紙法の實際智識 附、出版關係法令集	成田總一郎著 昭和十一年 東京 自治刊行會	一一二七
近世法學通論	三浦信三著 昭和九年 東京 有斐閣	一〇四三六
判例日本特別法	澤山牛之助著 昭和十二年 東京 日本法規出版社	一一六〇五
法の本質	美濃部達吉著 昭和十一年 東京 日本評論社	一一〇八四
不法行為並ニ權利濫用の研究	末川傳著 昭和八年 東京 岩波書店	一一二五
F二二〇 裁判關係		
詳公法判例大系 上、下	美濃部達吉著 昭和八年十 東京 有斐閣	一一二〇
注刑事記録	潮 道佐著 昭和十一年 東京 立興社	一一二〇
F二三〇 刑法		
ピルクマ、共犯論	カール、ピルクマイヤー原著 昭和九年 齊藤金作譯	一一〇〇
早稻田法學別冊 第三卷	東京 早稻田大學出版部	
團體主義の刑法理論	安平政吉著 昭和十一年 東京 巖松堂書店	一一二六
新客觀主義の刑法理論	久禮田益喜著 昭和九年 東京 巖松堂書店	一一〇三
刑法概論(總論)	島田武夫著 昭和十一年 東京 有斐閣	一一一九
F二三一 各國刑法		
中華民國刑法	小野清一郎著 昭和八年、九 東京 中華民國法制研究會	一一〇四
總則、分則		
F二七〇 法令集		
現行兵事法令集	兵事法令集編纂會編 昭和十一年 東京 兵事法令集編纂會	一一三四九
第一卷 兵役之部		
第二卷 服役、補充、召集之部		
第三卷 召集之部		
第四卷 雜之部		
F三〇〇 法制		
日本法制史	隈時 渡著 昭和十一年 東京 章華社	一一〇七
F四〇〇 官制		
日本官制制度沿革史	小中村清雄著 昭和十一年 東京 東學社	一一四八
G〇〇〇 財政・經濟(一般)		
現徴收法規類纂	大藏省主稅局編 昭和十二年 東京 大藏財務協會	一一六三七
G一〇〇 財政		
財政概論	牧野輝智著 昭和十一年 東京 日本評論社	一一〇三

躍進日本の新財政經濟策 鈴木梅四郎著 昭和十一年 東京 森山書店	二二五	支那各省經濟事情 日本國際協會編 昭和十一年 東京 日本國際協會	二二九
我が財政經濟の革新 高橋亀吉著 昭和十一年 東京 千倉書房	二三四	イギリス經濟及經濟政策 慶應義塾各國經濟研究會編 昭和十一年 東京 改造社	二三〇
G二〇〇 經濟		米國社會經濟組織の變革 外務省調査部編 昭和十一年 東京 日本國際協會	二三三
轉換期の統制經濟 時事新報經濟部編 昭和十一年 東京 森山書店	二〇六	G二一一 經濟學	
國際經濟精說 田畑爲彦著 昭和十一年 東京 言海書房	二〇九	經濟學文獻大鑑 大阪商科大学經濟研究所編 昭和十一年 大阪 大阪商科大学經濟研究所	二二九
プロック經濟地理 森 武夫著 昭和十一年 東京 叢文閣	二〇九	第二卷 貨幣金融篇	
工業經濟概論 林 登末夫著 昭和十一年 東京 巖松堂書店	二一五	G二一二 經濟史	
我國最近の經濟と財政 石橋漢山著 昭和九年 東京 平凡社	二二〇	支那近代農民經濟史研究 李蔚 農山原著 昭和十一年 東京 東亞經濟調查局	二二六
經濟立國策 西原龜三著 大正八年 東京 有斐閣	二二七	亞米利加社會經濟史 猪谷善一著 昭和十一年 東京 章華社	二二八
國際經濟研究 第一輯 國際經濟學會編 昭和十一年 東京 言海書房	二二九	G二二〇 金融	
南支、南洋に於ける我經濟的活動 南方國家叢書第十七輯 南方經濟調查會編 昭和十一年 東京 南方經濟調查會	P 二七六	滿洲國幣制と金融 調書第六編 金融研究會編 昭和七年 東京 金融研究會	P 二五六
G二〇一 經濟政策		實踐金融論 高橋亀吉著 昭和九年 東京 千倉書房	二〇六
自由と統制 小島精一著 昭和十一年 東京 千倉書房	二二五	II一〇〇 産業	
國策經濟を語る 井上準之助著 昭和五年 東京 實業之日本社	二二三	南支那及臺灣之産業 藤本實也著 大正十五年 東京 大阪屋號書店	二三六
G二〇二 各國經濟		鮮滿及北支那之産業 藤本實也著 大正十五年 東京 大阪屋號書店	二三五

<p>改訂 日本工業政策 田中實著 昭和十一年 東京 栗田書店 二二五七</p>	<p>比律賓在留邦人商業發達史 渡邊 薰著 昭和十一年 東京 南洋協會 二〇七六</p>	<p>各國通商の動向と日本 外務省通商局編 昭和十一年 東京 日本國際協會 二二六三</p>	<p>商務便覽 昭和十二年版 田所 稔編 昭和十一年 東京 千倉書房 P 二六三四</p>	<p>商品學概論 佐藤 弘著 昭和十一年 東京 同文館 二二六四</p>	<p>國有林 上、下卷 農林省山林局編 昭和十一年 東京 大日本山林會 二二六五</p>	<p>米穀統制論 (新經濟全集) (第二十八卷) 八木芳之助著 昭和九年 東京 日本評論社 二〇六三</p>	<p>日本消費組合史 奥谷松治著 昭和十一年 東京 高陽書院 二二三四</p>	<p>工場管理の基調 海軍主計少佐 山口道尹編 昭和三年 二二七〇</p>	<p>工場・事務・能率・賃金 H 一〇二</p>	<p>新人造品及模造品 井口豊八郎共著 昭和九年 東京 太陽堂書店 二二六四</p>		
<p>東京市工業調查書 東京市役所編 昭和九年 P 二二七五</p>	<p>現代海運論 下村健一著 昭和十一年 東京 千倉書房 二二〇九</p>	<p>滿鐵及滿洲國々々有鐵道運賃改正の影響 日滿實業協會編 昭和十一年 東京 日滿實業協會 P 二二七六</p>	<p>帝國海運政策論 寺島成信著 昭和十一年 東京 巖松堂書店 二二二九</p>	<p>國際電信事業論 花岡 薰著 昭和十一年 東京 交通經濟社出版部 二〇八八</p>	<p>交通—運輸 H 一四一</p>	<p>滿鐵及滿洲國々々有鐵道運賃改正の影響 日滿實業協會編 昭和十一年 東京 日滿實業協會 P 二二七六</p>	<p>織維工業大系 三省堂編 昭和十一年 東京 三省堂 二二七三</p>	<p>第一卷 紡織原料</p>	<p>第八卷 人造絹絲</p>	<p>第十六卷 染色用藥劑一般</p>	<p>第十九卷 織物製造法</p>	<p>大住善八著 祖父江寬著 田部非省三著 相田祐次郎著</p>
<p>統計資料解題 内閣統計局編 昭和十一年 東京 全國經濟調查機關聯合會 P 二六〇四</p>	<p>統計諸表 H 二二〇</p>	<p>通信事業經營論 渡邊善三郎著 昭和七年 東京 交通經濟社出版部 二二二五</p>	<p>交通—通信 H 一四二</p>	<p>統計 H 二〇〇</p>								

昭和十一年度 鐵道統計資料 鐵道省編 昭和十一年度 第一輯 運輸、經理、職員 第二輯 建設、工務、工作、電氣 第三輯 監督	昭和十一年度 鐵道統計資料 鐵道省編 昭和十一年度 第一輯 運輸、經理、職員 第二輯 建設、工務、工作、電氣 第三輯 監督	P 六〇四
昭和十一年度 國勢ニ關スル統計 内閣統計局編 昭和十一年度 II二二二 年鑑・年報	昭和十一年度 國勢ニ關スル統計 内閣統計局編 昭和十一年度 II二二二 年鑑・年報	P 六二六
昭和十一年度 列國國勢要覽 東京 統計協會 II二二三 年鑑・年報	昭和十一年度 列國國勢要覽 東京 統計協會 II二二三 年鑑・年報	P 六二六
日本學生航空聯盟 海洋部年報 (第一號) 日本學生航空聯盟海洋部編 昭和十一年度 東京 日本學生航空聯盟海洋部	日本學生航空聯盟 海洋部年報 (第一號) 日本學生航空聯盟海洋部編 昭和十一年度 東京 日本學生航空聯盟海洋部	P 六〇四
昭和十一年度 支那年鑑 東亞同文會編 昭和十一年度 東京 東亞同文會	昭和十一年度 支那年鑑 東亞同文會編 昭和十一年度 東京 東亞同文會	P 六三三
昭和十一年度 海事年鑑 海事堂報社編 昭和十一年度 大阪 海事堂報社	昭和十一年度 海事年鑑 海事堂報社編 昭和十一年度 大阪 海事堂報社	P 六三七
昭和十一年度 日本經濟四季年報 經濟年報社編 昭和十一年度 東京 經濟年報社	昭和十一年度 日本經濟四季年報 經濟年報社編 昭和十一年度 東京 經濟年報社	P 六六六
昭和十一年度 第一輯 一九三五年 第一四半期 一六九 蘇聯邦要覽 日蘇通信社編 昭和十一年度 東京 日蘇通信社	昭和十一年度 第一輯 一九三五年 第一四半期 一六九 蘇聯邦要覽 日蘇通信社編 昭和十一年度 東京 日蘇通信社	P 六五五
昭和十一年度 日本經濟年報 第二十五輯 東洋經濟新報社編 昭和十一年度 東京 東洋經濟新報社	昭和十一年度 日本經濟年報 第二十五輯 東洋經濟新報社編 昭和十一年度 東京 東洋經濟新報社	P 六六六
昭和十一年度 世界經濟年報 第三十一輯 ウアル方原著 昭和十一年度 東京 經濟批判會譯 東京 叢文閣	昭和十一年度 世界經濟年報 第三十一輯 ウアル方原著 昭和十一年度 東京 經濟批判會譯 東京 叢文閣	P 六六六
昭和十一年度 鐵道省年報 鐵道省編 昭和十一年度 東京 鐵道省編	昭和十一年度 鐵道省年報 鐵道省編 昭和十一年度 東京 鐵道省編	P 六六六
昭和十一年度 日本外國貿易年表 上篇 大藏省編 昭和十一年度 東京 大藏省編	昭和十一年度 日本外國貿易年表 上篇 大藏省編 昭和十一年度 東京 大藏省編	P 六六六
I 一四〇 日本地誌—郷土史及風土記 東京府史 東京府編 昭和十一年度 第四卷 行政篇	I 一四〇 日本地誌—郷土史及風土記 東京府史 東京府編 昭和十一年度 第四卷 行政篇	一一四七五
I 一六〇 日本地誌—案内 (北海道) 大雪山と阿寒 清佐隆次編 昭和十一年度 北海道 北海道廳京勝地協會	I 一六〇 日本地誌—案内 (北海道) 大雪山と阿寒 清佐隆次編 昭和十一年度 北海道 北海道廳京勝地協會	一一〇五六
I 一七〇 日本地誌—事情 近郊史蹟案内 一高史談會編 昭和十一年度 東京 古今書院	I 一七〇 日本地誌—事情 近郊史蹟案内 一高史談會編 昭和十一年度 東京 古今書院	一一三三三
I 二〇〇 世界地誌 朝鮮事情 朝鮮總督府編 昭和十一年度 京城 朝鮮總督府	I 二〇〇 世界地誌 朝鮮事情 朝鮮總督府編 昭和十一年度 京城 朝鮮總督府	P 六三九
I 三二〇 亞細亞地誌—滿蒙 教材 世界地理 下卷 香川幹一著 昭和十一年度 東京 古今書院	I 三二〇 亞細亞地誌—滿蒙 教材 世界地理 下卷 香川幹一著 昭和十一年度 東京 古今書院	一一三三九
I 三三〇 亞細亞地誌—滿蒙 內蒙古 善隣協會調查部編 昭和十一年度 東京 日本公論社	I 三三〇 亞細亞地誌—滿蒙 內蒙古 善隣協會調查部編 昭和十一年度 東京 日本公論社	一一二〇五
I 三三〇 亞細亞地誌—滿蒙 外蒙古の現勢 善隣協會調查部編 昭和十一年度 東京 日本公論社	I 三三〇 亞細亞地誌—滿蒙 外蒙古の現勢 善隣協會調查部編 昭和十一年度 東京 日本公論社	一一二二二
I 三八〇 亞細亞地誌—事情 滿洲から北支へ 神田正雄著 昭和十一年度 東京 海外社	I 三八〇 亞細亞地誌—事情 滿洲から北支へ 神田正雄著 昭和十一年度 東京 海外社	一一六〇八
I 三九〇 亞細亞地誌—事情 滿蘇支邊境事情 滿洲事情案内所編 昭和十一年度 新京 滿洲事情案内所	I 三九〇 亞細亞地誌—事情 滿蘇支邊境事情 滿洲事情案内所編 昭和十一年度 新京 滿洲事情案内所	P 六二〇

昭 十 年 度 和 學 徒 至 誠 會 派 遣 團 研 究 報 告 學 徒 至 誠 會 編 昭 和 十 一 東 京 學 徒 至 誠 會	I 五二〇 紀行—報告	P 六四一
第一篇 滿洲篇		
第二篇 滿洲講演集		
第三篇 南洋篇		
第四篇 南洋講演集		
I 五五〇 紀行—航海		
練習船シートル訪問記 練習船海王丸編 昭和九 海王丸シートル訪問記 練習船海王丸編 昭和九 東京 海王會		二〇九六
J 一〇〇 數 學		二六五一
新 度 量 衡 換 算 表 鐵道大臣官房研究所編 昭和八 東京 鐵道時報局		二六五二
J 二二二 力 學		二〇九六
機械材力學 杉村伊兵衛著 昭和八 東京 養賢堂		二〇九六
剛體ノ力學 玉城嘉十郎著 昭和十一 東京 内田老鶴閣		二二二九
J 二二〇 化 學		一〇九三
應用化學大觀 今川一 共著 昭和二 大塚好治 共著 昭和二 東京 金刺芳流堂		一〇九三
J 二三〇 天 文 學		二五三三
圖說天文講座 山本一清編 昭和十二 東京 厚生閣		二五三三
第四卷 遊 星 太陽系の創成 竹田新一郎著		
水星、金星、火星 小 遊 星 木星と土星 月と其の觀測法(二)	本邊成勝著 波邊敏夫著 田中宗愛著 村上忠敬著	P 六三三
J 二四二 天 文 學—地 震		
宮城縣昭和震嘯誌 宮城縣編 昭和十		
J 二五〇 氣 象 學		
氣象と人生 藤原暎平著 昭和十 東京 岩波書店		二二六三
氣象學 岡田武松著 昭和九、十 東京 岩波書店		二二六六
上、下卷		
測風氣球觀測常用表 中央氣象臺編 昭和十一 東京 中央氣象臺		二二二六
氣象器械學 科學叢書第七編 岡田武松著 昭和十 東京 岩波書店		二二〇九
J 二五一 人 類 學		二二二四
蘭領印度民族史 赤松祐之編 昭和十一 東京 日本國際協會		二二二四
日本民族論 白柳秀樹著 昭和九 東京 千倉書房		二二二五
J 三〇〇 工 學		二二六六
標準機械大觀 日本工業新聞社編 昭和十一 東京 日本工業新聞社		二二六六
衛生工業便覽 衛生工業協會編 昭和十一 埼玉 秀湖友吉		二二六六
J 三二〇 機 械 工 學		

最新自動車教科書 淺野清治著 昭和十
東京 徳文堂書店

新研究齒車 藤野篤之著 昭和九
東京 丸善株式會社

上、下卷

J 三二一 金屬工學

本邦製鐵鋼業に對する素人觀 陸軍中將 吉田豊彦著 昭和三
東京 偕行社

J 三二二 造船

三菱長崎造船所史 三菱造船株式會社
長崎造船所職工課編 昭和三

(一) 幕末ヨリ昭和三年三月マデ

横須賀海軍工廠史 横須賀海軍工廠編 昭和十

第四卷 自明治三十一年紀 至明治四十年紀

第五卷 自明治四十一年紀 至大正六年紀

第六卷 自大正七年紀 至大正十四年紀

第七卷 自大正十五年紀 至昭和七年紀

新造船學 山口增人著 昭和十一
東京 海洋社

J 三二三 土木

下關港修築工事誌 内務省下關土木出張所編 昭和十
下關 内務省下關土木出張所

流量表 池田篤三郎著 昭和十一
東京 丸善株式會社

J 三二七 航空機

航空發動機の設計 神藏信雄著 昭和十一
東京 工業圖書株式會社

航空發動機 大友 博著 昭和十
東京 丸善株式會社

航空原動機 富塚 清著 昭和十一
東京 工業圖書株式會社

飛行機 小川太一郎著 昭和十
東京 岩波書店

航空計器 佐々木達治郎著 昭和十二
東京 工業圖書株式會社

J 四一〇 病理・生理

增運動生理學 吉田章信著 昭和七
東京 南江堂書店

生理學 上野一晴著 昭和九、十一
東京 南山堂書店

J 四二〇 内科

小内科診斷學 加藤義夫著 昭和九
東京 金原商店

J 四八〇 衛生

健康新道 小田部莊三郎著 昭和十
東京 春陽堂

榮養 佐伯 矩著 昭和九
東京 榮養社

K〇〇〇 哲學・宗教・教育・社會(一般)

生長の家 生命の實相 谷口雅春著 昭和十
東京 光明思想普及會

地の春

凡人と非凡人 江原小彌太著 昭和十
東京 千倉書房

K 一〇〇 哲學

心學講話 石川 謙著 昭和十 東京 章華社 二一九七	K一〇三 國體 岩野直英著 昭和十一 東京 舊邦社 二〇八九	哲學の日本國體 池岡直孝著 昭和十 東京 章華社 二一八四	國體本義の明徴 K一三三 國民精神 海軍工機學校友會編 昭和十一 横須賀 同校學友會 P二七六七	日本精神 K一四四 修身書 加藤熊一郎(唯堂)編 昭和十一 東京 國民教育會 二六〇九	一日人生日記 K四二四 勞働運動 海軍主計少佐 山口道尹編 昭和三 二五七三	各國勞働運動史觀 上、下卷 L一七〇 隨筆 高千穂學校編 昭和八 東京 高千穂學校 二五九四	浦門川田先生全集 M二〇〇 地名・人名 人事興信所編 昭和十二 東京 人事興信所 自 P六三三 至 P六三三	第十 人事興信錄 上、下卷 M二二〇 圖書館 和田萬吉著 昭和十一 東京 芸艸會 二五九〇	圖書館史 M二〇〇 叢書
大日本文庫 大日本文庫刊行會編 昭和十二 東京 大日本文庫刊行會 一〇六一	佛教篇 日蓮上人集 アルス機械工學大講座 東京 アルス 昭和十二 大賀惠三著 二二五五 二二八四	第十一卷 蒸氣タービン M三〇〇 全集 末弘殿太郎編 昭和十二 東京 日本評論社 二一〇三	新法學全集 第一卷 選舉法 河村文介著 第十七卷 手形法、小切手法 伊澤孝平著 第二十四卷 和議法 齊藤常三郎著 第二十七卷 戰時國際法 田岡良一著	M六〇〇 辭書類 平凡社編 昭和十二 東京 平凡社 二五七六	大百科辭典 第三卷 一 ウツトエホン 第三卷 二 エホン・オーム 第四卷 一 オーマー・オンル 第四卷 二 カーカクン	M六二〇 辭書—漢文 宇野哲人 共編 昭和十二 長澤規矩也 東京 三省堂 自 二六三七 至 二六四一	M六七〇 辭書—地名・人名 新訂 大日本文人名辭典 大日本文人名辭書刊行會編 昭和十二 東京 大日本文人名辭書刊行會 二五五三 第二卷 カナターヤマカ	新撰漢和辭典 自 P六三三 至 P六三三	

1. ENGLISH BOOKS

- (A000. War Science General.)
Adams, Robert E.-War & Wages.
N. Y., 1935. 9727
Burns, C. Deisle-War & a Changing
Civilisation. London, 1934. 9723
(A030. Defence.)
Boycott, A. G.-The Element of Imperial
Defence. London, 1936. 9723
Kennedy, J. R.-Modern War & Defence
Reconstruction. London, 1936. 7936
Angell, Norman-The Menace to
Our National Defence. London, 1934. 9722
(A441. Fuel.)
Schmidt, Ludwig-Applied Methods &
Equipment for Reducing Evaporation
Losses of Petroleum & Gasoline.
Washington, 1934. 9746
Bell, H. S.-American Petroleum Refining.
N. Y., 1930. 9745
Leslie, Eugene H.-Motor Fuels, their
Production & Technology. N. Y., 1923. 9626
Kalichevsky, Vladimir A. & Stagner,
Bart Alien-Chemical Refining of
Petroleum. N. Y., 1932. 9625
(B000. Ships, Airplanes, Ordnance, Engine-General.)
Wagner, Edward P.-Airplane Design
Performance N. Y., 1936. 9740
Sammels, William-Engine Bearing Loading.
Michigan, 1935. 9629
(B200. Aircraft-General.)
Hall, S. Scott & England, T. H.-Aircraft
Performance Testing. London, 1933. 9715-9719
Adams, D. R.-Practical Aircraft Stress
Analysis. London, 1936. 9651
(D130. United States Navy.)
Knox, Dudley W.-A History of the
United States Navy N. Y., 1936. 9743
(D640. Biography of the German.)
Heiden, Konrad-Hitler, A Biography.
London, 1936. 9730
(E200. International Problem.)
Wheeler-Bennett, John W. & Heald,
Stephen-Documents on International
Affairs, Vol. I. II. London, 1936. 9728
(E210. Problems about the War-General.)
Ivor Nicholson & Watson-War Memoirs
of David Lloyd George. Vol. I. V. VI.

0493

(J400. Medicine-General.) His Majesty's Stationery Office.-First Aid in the Royal Navy. London, 1936.	9703	Deutscher Ingenieure.-Nichteisenmetalle. (Verkstoffhandbuch.) Berlin, 1936. Hinzmann, Reinhold.-Nichteisenmetalle. Berlin, 1934. Peter, A.-Das Pressen der Metalle. (Nichteisenmetalle.) Berlin, 1930. Spitzer Fritz.-Rezepte für die Verkrüth. Berlin, 1936. Klose, Rudolf.-Fabrspritzen. Berlin, 1932. Morsch, E.-Die Brücken aus Eisenbeton. Stuttgart, 1933. Hindhede, Mikkel.-Gesundheit Durch Richtige und Einfache Ernährung Leipzig, 1935. Möhr, Silvio.-Der Hochbau. Wien, 1936. Blanch, E.-Handbuch der Bodenlehre. Berlin, 1930. Hollmann, E. E.-Physik & Technik der Ultrakurzen Wellen. Berlin, 1936.	2318 2319 2320 2321 2322 2361 2362 2363 2364 2325
(M500. Dictionary-General.) Ekwall, Eilert.-The Concise Oxford Dictionary of English Place-Names. Oxford, 1936.	9720	3. LIVRES FRANÇAIS. (Y100. Miscellaneous Militaires, Marine, Aéro-nautique.) Bajot, Pierre.-L'aviation Militaire Française. Paris, (1936)	1767
2. DEUTSCHE BÜCHER.			
(X600. Die Wissenschaft.) Hayashi Keichi.-Theorie des Tragers auf Elastischer Unterlage. Berlin, 1921. Richter, Rudolf.-Elektrische Maschinen. Berlin, 1936. Aluminium Zentrale.-Aluminium-Taschenbuch. Berlin, 1936. Herrmann, E. & Zurbrugg, E.-Die Bearbeitung des Aluminium. Leipzig, 1936. Heilandt & Maier.-Zeichnungs Normen. (Dinbuch S.) Berlin, 1929. Holler, Hermann.-Der Leichtmetall-Schweisser. Halle. (1936) Deutschen Normenausschuss.-Grundnormen, 6 Auflage. Berlin, 1936. Deutschen Gesellschaft für Metallkunde im	2309 2310 2311 2313 2314 2315 2317		

Rougeron, C.-L'aviation de Bombardement, Tome 1. Paris, 1936.	1763-1764
Rougeron, C.-L'aviation de Bombardement, Tome 2. Paris, 1936.	1765-1766
(Y400, Finance, Publlique, Economie, Industrie, Statististique.)	
Ottlik, Georges-Annuaire de la Societe des Nations, 1936. Geneve, 1936.	1769
(Y600. Science.)	
Grand, C.-La Corrosion en Metallurgie. Paris, 1936.	1758

海軍公報 第三千五十九號

昭和十二年五月二十八日(金)
海軍大臣官房

○ 辭令

海軍技師 大谷文太郎
技術部第一課勤務兼第二課勤務ヲ命ス

同 伊東友彦
技術部第一課勤務ヲ命ス(以上^{五十五}海軍航空本部)

○ 雜款

○進水
驅逐艦荒潮本月二十六日株式會社川崎造船所、驅逐艦夏雲ハ同日佐世保海軍工廠ニ於テ孰モ進水セリ

○正誤
本月二十二日辭令欄山田道行ノ辭令文中「第一課」ヲ
削除ス

海軍公報 第三千五十九號 昭和十二年五月二十八日

0497

海軍公報 第三千六十號

昭和十二年五月二十九日(土)
海軍大臣官房

○ 雜 款

○宿所變更

海軍省經理局第三課長海軍主計大佐森島種雄宅
淀橋區西大久保二ノ二五七(電話 四谷六九二〇)

○試驗問題發送

第八十期普通科砲術
第十二期普通科測的術練習生採用試驗問題ハ先般海軍
水雷學校ヨリ發送セシ本校竝ニ水雷學校、航海學校各
種普通科練習生採用試驗問題ト同一問題ニ付別ニ發送
セズ

(海軍砲術學校)

海軍公報 第三千六十號 昭和十二年五月二十九日

(號外五頁) 三六三(三六二缺)

海軍公報 號外

昭和十二年五月二十九日(主)
海軍大臣官房

○令達

官房第二七八二號

昭和十二年五月二十八日

海軍大臣

各所屬長官殿

皇太后陛下 行啓ニ關スル件通達

皇太后陛下 來六月五日御發輿三重、京都、大阪、奈良、愛知、静岡ノ各府縣下へ行啓七月十日還御可被爲在旨被仰出候趣宮内大臣ヨリ通牒有之候條此ノ旨心得ベシ追テ御日程別紙ノ通

別紙

御 日 程

六月 五日

午前 七時四十分 御發輿
同、八時 十分 東京驛御發車

六月 六日

午後 四時三十五分 山田驛御著車
御 泊 所 神宮司廳

午前 九時 御泊所御出門

豐受大神宮御參拜

午後 一時 御泊所御出門

皇大神宮御參拜

午後 二時五十分 御泊所御出門

倭姬宮御參拜

御 泊 所 神宮司廳

六月 七日

午前 八時四十分 御泊所御出門

同 九時 山田驛御發車

同 九時三十分 松阪驛御著車

本居宣長遺跡鈴屋へ行啓

午前 十一時二十五分 松阪驛御發車

午後 零時十五分 鳥羽驛御著車

海軍公報 號外

六月八日	午前 十時五十分 御泊所御出門	御木本眞珠養殖場へ行啓 午後 四時五十分 鳥羽驛御發車 同 五時 十分 山田驛御著車 御 泊 所 神宮司廳
伊勢離宮地へ行啓	三重縣女子中等學校、女子青年學校、女子青年團聯合體操御覽	
午後 一時 十分 御泊所御出門	同 一時三十分 山田驛御發車	
同 四時二十五分 京都驛御著車	御 泊 所 京都皇宮	
六月九日	午前 八時 十分 京都皇宮御出門	
同 八時三十分 京都驛御發車	同 十時 十分 畝傍驛御著車	
畝傍山東北陵御參拜	桃花島田丘上陵御參拜	
官幣大社樞原神宮御參拜	午後 一時三十分 畝傍驛御發車	
六月十日	午前 九時 十分 京都皇宮御出門	
同 九時三十分 京都驛御發車	同 九時四十四分 桃山驛御著車	
伏見桃山東陵御參拜	伏見桃山東陵御參拜	
午前 十一時 桃山驛御發車	同 十一時十四分 京都驛御著車	
後月輪東山陵御參拜	後月輪東山陵御參拜	
觀音寺陵御參拜	月輪陵御參拜	
後月輪陵御參拜	法住寺陵御參拜	
六月十一日 御 泊 所 京都皇宮		
	同 二時十二分 奈良驛御著車	
	官幣大社春日神社御參拜 午後 四時 十分 奈良驛御發車	
	同 五時 十分 京都驛御著車	
	御 泊 所 京都皇宮	

六月十二日	御 滯 在	午前 十 時	京都皇宮御出門
		官幣大社賀茂御祖神社御參拜	
		同 賀茂別雷神神社御參拜	
六月十三日	御 泊 所	午前 九 時	京都皇宮御出門
		官幣大社石清水八幡宮御參拜	
		官幣中社水無瀬宮御參拜	
六月十四日	御 泊 所	午前 九時 十分	京都皇宮御出門
		同 九時 三十分	京都驛御發車
		同 十一時 十五分	四條驛御著車
		官幣大社枚岡神社御參拜	
		午後 二時 三十分	四條驛御發車
		同 四時 十五分	京都驛御著車
六月十五日	御 滯 在		京都皇宮
六月十六日	御 滯 在	午前 九時 三十分	京都皇宮御出門
		別格官幣社護王神社御參拜	
		午後 二 時	京都皇宮御出門
		東福寺へ行啓	
六月十七日	御 泊 所	午前 十一時	京都皇宮御出門
		佛光寺へ行啓	
六月十八日	御 泊 所	午前 九時 四十五分	京都皇宮御出門
		大典記念京都植物園へ行啓	
		女子中等學校生徒合同體操御覽	
		華族會館京都分館へ行啓	
六月十九日	御 泊 所		京都皇宮
六月二十日	御 滯 在		
六月二十一日	午前 九 時		京都皇宮御出門

海軍公報 號外

<p>六月二十二日 午前 九時 十分 京都皇宮御出門</p> <p>六月二十三日 午前 九時 京都皇宮御出門</p> <p>午後 三時 京都皇宮御出門</p> <p>慈照寺へ行啓 御 泊 所 京都皇宮</p> <p>六月二十四日 同 二十五日 御 滯 在</p> <p>六月二十六日 午前 九時 十分 京都皇宮御出門</p>	<p>京都高等蠶絲學校へ行啓 午後 二時 三十分 京都皇宮御出門</p> <p>日本レース株式會社へ行啓 御 泊 所 京都皇宮</p> <p>六月二十二日 午前 八時 三十分 京都皇宮御出門</p> <p>日本赤十字社京都支部病院へ行啓 京都市兒童院へ行啓 二條離宮へ行啓 御 泊 所 京都皇宮</p>	<p>六月二十七日 午前 九時 京都驛御發車</p> <p>同 九時三十分 京都驛御發車</p> <p>同 十時三十分 奈良驛御著車</p> <p>御 泊 所 奈良縣公會堂</p> <p>六月二十七日 午前 九時 御泊所御出門</p> <p>春日率川坂上陵御參拜 佐保山南陵御參拜 佐保山東陵御參拜 午後 一時 御泊所御出門</p> <p>奈良女子高等師範學校へ行啓 萬葉植物園御立寄 御 泊 所 奈良縣公會堂</p> <p>六月二十八日 午前 九時 御泊所御出門</p> <p>法隆寺へ行啓 中宮寺へ行啓 御 泊 所 奈良縣公會堂</p> <p>六月二十九日 午後 一時五十分 御泊所御出門</p> <p>同 二時 奈良驛御發車</p> <p>同 五時 名古屋驛御著車</p>
--	---	---

六月三十日	御泊所	元名古屋離宮
七月一日	御滞在	
午前九時	御泊所御出門	
午後二時三十分	御泊所御出門	
官幣大社熱田神宮御參拜		
鶴舞公園へ行啓愛知縣下女子中等學校生徒及女子青年團員代表合同體操御覽		
御泊所	元名古屋離宮	
七月二日	御泊所御出門	
午前九時	御泊所御出門	
三菱重工工業株式會社名古屋航空機製作所へ行啓		
午後二時	御泊所御出門	
御幸毛織株式會社へ行啓		
御泊所	元名古屋離宮	
七月三日	御泊所御出門	
午前九時	御泊所御出門	
日本陶器株式會社へ行啓		
午後二時三十分	御泊所御出門	
德川美術館へ行啓	御泊所	元名古屋離宮
七月四日	御泊所御出門	
午前七時五十分	御泊所御出門	
午前八時	名古屋驛御發車	
午前十一時四十分	沼津驛御著車	
御泊所	沼津御用邸	
七月五日	御滞在	
七月六日	御泊所	沼津御用邸御出門
午前九時	御泊所	沼津御用邸
官幣大社三島神社御參拜		
七月七日	御泊所	沼津御用邸御出門
同八月九日	御滞在	
同九月十日	御泊所	沼津御用邸御出門
午前八時五十分	沼津驛御發車	
同九時十分	東京驛御著車	
同十一時十分	還御	

海軍公報 號外

海軍公報 第三千六十一號

昭和十二年五月三十一日(月)

海軍大臣官房

○通牒

軍務一第七三號

昭和十二年五月三十一日

海軍省軍務局長

各鎮守府 各要港部 參謀長殿

航空ペーセントニ關スル件申進

首題ニ關シ遞信次官ヨリ別紙ノ要旨申出有之候處貴府(部)作業トシテ差支ナキ限リ適宜式場附近ヲ飛行セシメラルコトニ取計相成度

追テ一、各主催地關係者ト打合ノ上便宜海軍機參加

ノ名目ヲ使用セシメラレ差支ナキ内意ニ候

二、陸軍機ハ東京ニ於テハ所澤、下志津、濱松ヨリ、福岡ニ於テハ太刀洗、濱松、熊谷ヨリ若干機飛來ノ豫定ニシテ他ハ尙未定ノ由

參考迄

(通報先第一、第二艦隊參謀長)

(別紙)

航空ペーセントニ關スル件

六月一日ヨリ發賣セラルル愛國郵便切手類宣傳ノ爲當省、帝國飛行協會、朝日新聞社共同主催ノ下ニ左記ノ通航空ペーセントヲ開催致度ニ付テハ軍用機ノ參加其ノ他何分ノ御援助方可然御取計相煩度及御依頼候追テ計畫ノ詳細ニ付テハ不日關係者出頭可及御依頼候間爲急申添候

記

- 東京 六月五日(土曜)
- 福岡 六月十二日(土曜)
- 大阪 六月中
- 仙臺 七月上旬
- 盛岡

○辭令

海軍公報 第三千六十一號 昭和十二年五月三十一日

三六五

海軍少將 村上 佐
海軍航空廠ニ於ケル研究業務囑託ヲ解ク

海軍中佐 岩本 喜一
水路部ニ於ケル編纂事務囑託ヲ解ク(以上^{三十一日}海軍省)

○雜 款

退役海軍中佐從五位勳三等岡田雄三本月二十八日
卒去、一昨二十九日大阪府南河内郡藤井寺町大字
岡二二四自宅ニ於テ佛式ニ依リ葬儀執行セリ